

様式 8

「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

「斐伊川・神戸川流域環境マップづくりⅫ」成果報告書

助成番号：2018-6111-009

NPO 法人 しまね体験活動支援センター

理事長：青木充之

平成 30 年度

1. 事業の概要

1-1. 事業概要

子ども達の体験不足から想定される河川への関心の低下などの問題を解決するために、河川での環境調査体験活動を実施することで河川環境への関心を高め、ふるさとや国土に対する理解と愛着心を育むために、流域の市民団体、行政、教育委員会、学校等が協力して「斐伊川・神戸川流域環境マップづくり」に取り組みました。

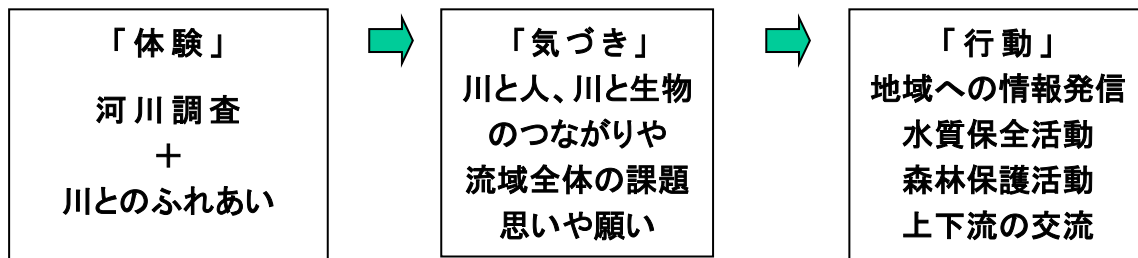
マップづくりの活動は、各学校等の河川調査の結果を積み重ね河川環境マップを作ることによって、河川流域全体の環境を知ることができる他、参加者はもとより、流域住民の河川環境への関心を高めると共に上下流の相互理解や交流にも役立っています。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくりの概要

1-2. ねらい

ふるさと学習を通じての「ふるさとを愛する人づくり」の一環として、また、流域全体の河川環境学習の一環として、2002年から神戸川を活用した「川の環境マップづくり」に取り組んできました。平成19(2007)年からは、斐伊川流域まで範囲を拡大して河川環境マップづくりを行いました。川での調査体験活動の取り組みと、そこから感じられた様々な気づきや地域環境への願いなどを子ども達が流域全体に情報発信していきます。

ふるさとを愛する人づくり・河川環境学習の推進



主催：NPO 法人 しまね体験活動支援センター

主幹：斐伊川・神戸川流域圏小中学校等（2市2町の小中学校等が対象（2017年度））

共催：島根県中山間地域研究センター

◆ひいかわ斐伊川の概要

源流：島根県・鳥取県の県境 せんつうざん船通山（標高 1,142.5m） 延長：約 153km

流域は、上流から宍道湖に流入する斐伊川本線流域と、汽水湖である宍道湖の流域、中海の流域の3つに大別されます。斐伊川は典型的な砂河川で、全国でもまれな「天井川」として知られています。上流部では昔「たたら製鉄」が行われていました。宍道湖・中海については比較的浅く、また日本海との平均水位差が数 cm～数 10cm と小さいため、淡水と海水が入り混じった「汽水湖」で、西日本最大級の冬鳥の飛来地としても有名です。

かんどがわ

◆神戸川の概要

源流：飯石郡飯南町南端 女 亀山^{めがめやま}（標高 830m）延長：約 82km

神戸川は流域の約 80%が山地で、川は『出雲国風土記』にも登場し古来から親しまれています。斐伊川神戸川治水（合流）事業により飯南町には志津見ダムが完成、下流部出雲市では 2013 年に斐伊川放水路工事が完成し洪水時に分水が開始されました。2006 年 8 月 1 日からは神戸川は1級河川に指定され、斐伊川流域に編入されました。

1-4. 参加校等（公民館含む）

飯南町 【小学校】 赤名、来島、頓原

出雲市 【小学校】 神戸川、長浜、鰐淵、須佐、多伎

【中学校】 佐田、大社 【高等学校】 出雲西

雲南市 【小学校】 西日登 【中学校】 大東

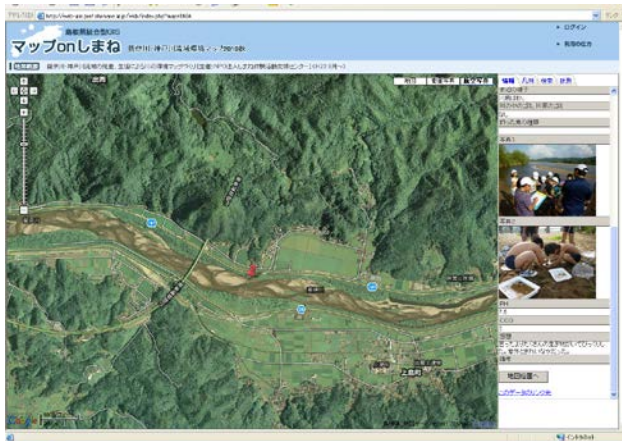
奥出雲町 【公民館】 布勢公民館

1-5. 調査内容

- ①調査期間を春と秋にそれぞれ約 1 ヶ月設けます。
- ②各学校付近で実際に川に入って、指標生物やゴミ、水質（pH、COD）などを調査します。
- ③指標生物を分析し、種類・数から水質判定します。
（国土交通省・環境省の指標を採用）
- ④調査地点ごとに調査結果（指標生物数、感想、写真など）を、各学校からインターネットを使って島根県の運営するマップ on しまね～島根県統合型 GIS～のホームページに入力します。
- ⑤流域全体の河川環境マップが完成します。
⇒ホームページで公開しています。

マップ on しまね <http://web-gis.pref.shimane.lg.jp/>

トップページ>検索バー(参加型マップ>斐伊川・神戸川流域環境マップ)



↑川に入って生物探し



↑水生昆虫識別中

(上) 各学校から入力された情報で完成した斐伊川・神戸川流域環境マップの画面。地図の●をクリックすると調査結果や感想、写真などを見ることができます。

※その他、源流や河口への見学、流域全体の水質調査、川のゴミ拾いやゴミの分類調査、水質浄化の取り組みを冊子にまとめ配布する活動、ホタル調査やホタル学習、地域で河川調査の成果を発表する活動などを実施している学校や公民館もあります。

1-6. 協力機関

国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

公益財団法人河川財団、島根県、出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、飯南町教育委員会、奥出雲町教育委員会、島根地理学会、公益財団法人島根県環境保健公社、島根県立宍道湖自然館ゴビウス他

1-7. これまでの活動

◆これまでの活動

2002年のから通算40回、のべ14,271人も子どもたちが参加しました。

調査時期	参加校等	参加者	調査地点	調査期間	統一調査日	
H14	秋	29	1108	54	9/11～10/11	9/12
H15	春	18	985	34	5/26～6/20	6/5
	秋	28	1135	58	9/2～9/30	9/18
H16	春	24	810	48	6/1～6/30	6/9
	秋	13	396	29	9/1～9/30	9/9
H17	春	14	633	31	6/1～7/15	7/7
	秋	17	501	47	9/1～9/30	9/9
H18	春	12	261	16	6/6～7/7	6/12～6/16
	秋	11	379	17	9/4～10/4	9/11～9/15
H19	春	28	226	18	6/4～7/13	なし
	秋	14	400	13	9/3～10/5	なし
H20	春	17	386	29	5/27～7/18	なし
	秋	16	490	23	9/1～10/10	なし
H21	春	23	478	29	5/28～7/18	なし
	夏	5	75		7/19～8/31	なし
	秋	24	711	24	9/1～10/25	なし
H22	春	11	206	16	5月～7月	なし
	夏	9	189		7月～8月	なし
	秋	20	610	23	9月～11月	なし

H23	春	14	301		5月～7月	なし
	夏	8	127		7月～8月	なし
	秋	17	378		9月～11月	なし
H24	春	14	241		5月～7月	なし
	夏	10	207		7月～8月	なし
	秋	13	305		9月～11月	なし
H25	春	9	178		5月～7月	なし
	夏	10	259		7月～8月	なし
	秋	12	278		9月～11月	なし
H26	春	9	262		5月～7月	なし
	夏	7	97		7月～8月	なし
	秋	10	176		9月～11月	なし
H27	春	11	225		5月～7月	なし
	夏	4	43		7月～8月	なし
	秋	11	231		9月～11月	なし
H28	春	7	168		5月～7月	なし
	夏	6	122		7月～8月	なし
	秋	8	206		9月～11月	なし
H29	春	9	193		5月～7月	なし
	夏	6	67		7月～8月	なし
	秋	9	228		9月～11月	なし
H30	春	8	144		5月～7月	なし
	夏	6	185		7月～8月	なし
	秋	6	104		9月～11月	なし

1-8. 主なできごと

<p>H28 (2016) 年度</p>	<p>(公)河川財団の河川助成事業、(一社)中国建設弘済会「中国地方地域づくり等助成事業」の助成を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月 河川調査指導者研修会を神戸川(出雲市乙立町立久恵峡)で開催 ・6月 第10回斐伊川・神戸川流域環境マップづくりを開始 ・11月23日(水・祝) 出雲科学館において「第10回斐伊川・神戸川流域環境マップづくり成果発表会」を開催し、出雲市立岐久小学校が発表 ・同日同会場において斐伊川・神戸川流域環境マップづくり10周年を記念して、約130名が参加し「斐伊川・神戸川子どもシンポジウム」を開催した ・11月27日 島根日日新聞に成果発表会の様子が報道された <p>参加学校数14(高等学校1含む)、公民館1、延べ参加者数496人</p>
<p>H29 (2017) 年度</p>	<p>(公)河川財団の河川助成事業、しまね社会貢献基金活動支援金の助成を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月 河川調査指導者研修会を神戸川(出雲市乙立町立久恵峡)で開催 ・6月 第11回斐伊川・神戸川流域環境マップづくりを開始 ・6月 (一社)中国建設弘済会「中国地方地域づくり等助成事業報告会」(広島市)で発表。敢闘賞を受賞。 ・11月公益財団法人河川財団より平成28年度助成事業「川づくり団体部門」優秀成果表彰団体に選出される ・11月23日(木・祝) 出雲科学館において「第11回斐伊川・神戸川流域環境マップづくり成果発表会」を開催し、飯南町立頓原小学校、出雲市立須佐小学校、出雲市立大社中学校科学部、雲南市立大東中学校、出雲西高等学校インターアクトクラブが発表 ・11月25日 島根日日新聞に成果発表会の様子が報道された ・1月「平成29年度川づくり団体全国事例発表会」(東京大学小柴ホール)で発表 <p>参加学校数13(高等学校1含む)、公民館1、延べ参加者数488人</p>
<p>H30 (2018) 年度</p>	<p>(公)河川財団の河川助成事業、(一社)中国建設弘済会「中国地方地域づくり等助成事業」の助成を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月 河川調査指導者研修会を神戸川(出雲市乙立町立久恵峡)で開催 ・6月 第12回斐伊川・神戸川流域環境マップづくりを開始 ・11月24日(土) 出雲科学館において「第12回斐伊川・神戸川流域環境マップづくり成果発表会」を開催し、飯南町立来島小学校、出雲市立神戸川小学校、出雲市立鰐淵小学校、奥出雲町立阿井小学校が発表 ・11月26日 島根日日新聞に成果発表会の様子が報道された ・12月16日 国土交通省よりの優れた地域づくり活動に与えられる「手づくり郷土賞」を受賞し、東京国際交流館プラザ平成で行われた記念発表会に参加 ・1月「平成30年度川づくり団体全国事例発表会」(東京大学小柴ホール)のポスターセッションで河川環境マップづくり事例発表 ・2月出雲市役所で市長・教育長らも出席し「手づくり郷土賞授与式」が行われた <p>参加学校数12(高等学校1含む)、公民館1、延べ参加者数433人</p>

2. 活動の記録

2-1. 春の指導者研修会(主に教員を対象)

午前10時から12時まで、国土交通省出雲河川事務所・公益財団法人島根県環境保健公社の皆様のご指導で、透視時計、水質調査パックテスト、水生昆虫による水質判定等の実習を行った。



【国土交通省より河川概要の説明】



【透視度計による調査の実習】



【水生昆虫採集のやり方指導】



【水生昆虫採集の実習】



【水生昆虫の識別のポイント指導】



【水生昆虫の識別体験】

2-2. 斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2018年参加校報告書

学校名・施設名等 飯南町立頓原小学校

担当者名 重並 真弓

対象河川名 頓原川・神戸川

実施時期 春・秋

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

[参加学年等] 4年生 [参加者数] 春調査 13人・秋調査 13人

○夏(7月)と秋(10月)2回調査を行った。夏は校区内を流れる頓原川で、秋にはそれに加え、神戸川の上流から下流まで下る形で数カ所、水質調査および水生生物の採集を行った。

☆頓原川(駐在所付近)

【夏】期日:7月13日(金) 天候:晴れ

<春の調査>

気温:31度 水温:18度 COD 5 Ph 7

<一番多かった指標生物>ヒラタカゲロウ類 37

<水のきれい度> Iきれいな水

<その他の生物>タニガワカゲロウ類 13・カワニナ類 19・コオニヤンマ 11・ニンギョウトビケラ類 5 など

<水辺の様子>調査の一週間前に大雨が降り、通常よりも流れが速

かったが、草刈もされていてとてもきれいな環境であった。川のまわりにほとんどゴミは見られず、川辺は草が生え湿地の状態であった。水生生物も想像したより多く見られた。



☆頓原川上流～神戸川河口

【秋】期日:10月9日(金)天候:晴れ

<秋の調査>

●上流(大万木山周辺)

気温:18度 水温:12度 COD 5 Ph 7

<一番多かった指標生物>ヘビトンボ 5

<水のきれい度> Iきれいな水

<その他の生物>ヒラタカゲロウ類 3・チラカゲロウ 4・ヒゲナガカワトビケラ類 3 など

<水辺の様子>源流近くのため、浅瀬で流れが速かった。とてもきれいな環境であったが、生物はあまり見つけることができなかった。



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

夏 ○底が透けて見えるし、魚や小さな生き物もたくさんいて、とてもきれいでした。まだ知らない生きものがいてすごかったです。○思っていたよりもだいぶきれいで、頓原川がきれいだということが分かって安心しました。○思っていた以上に水の中に生き物がいてびっくりしました。川の水がきれいで、気持ちがよかったです。

秋 ○川の水がとても冷たくて、生き物もあまり見つかりませんでした。○水が冷たかったけど、とてもきれいでした。ヘビトンボが大きくて、びっくりしました。○頓原川が本当に海につながっていてびっくりしました。河口の周りにはごみがたくさんあったので、ごみを出さないようにしないといけないと思いました。

(子どもたちの感想から)

学校名・施設名等 出雲市立鱒淵小学校5・6年生『唐川川環境大調査』
担当者名 角 幸子
対象河川名 唐川川、猪目川 実施時期 春

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

[参加学年等] 5・6年生 [参加者数] 春調査 14人

【春の調査Ⅰ 唐川川】2018.6.5<天気>曇り<気温>21℃<水温>15℃～4ポイントで実施

<1番多かった指標生物>上流部…ヒラタカゲロウ類32 河口部…ヒラタカゲロウ2

<水のきれい度>きれい <その他の生物>上流部…カワゲラ類 ヘビトンボ サワガニ カワニナ カワトンボ
カジカガエル 河口部…カワゲラ類 ヘビトンボ スジエビ ニンギョウトビケラ モクズガニ <水辺の様子>
上流部…石が多く流れが速い

河口部…ヨシがあり流れが遅い、川が海に流れている

【春の調査Ⅱ 猪目川】2018.6.14<天気>晴れ<気温>25℃<水温>17℃

<一番多かった指標生物>ヒラタカゲロウ類9

<水のきれい度>きれい

<その他の生物>カワゲラ類 ヨコエビ類 ヘビトンボ ナミズムシ
コガタシマトビケラ類 コオニヤンマ カワニナ イシマキガイ カジ
カガエル ウキゴリ スジエビ カゲロウ モクズガニ



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

〈春の調査Ⅰの児童の感想より〉唐川川の上流の後野地区では水温が15℃と低く、水が冷たかったです。PHは6.5 CODは0でした。石をはぐってみるとヘビトンボやヒラタカゲロウの幼虫がたくさん見つかりました。カジカガエルの卵もありました。唐川川がきれいな川ということが分かったのでよかったです。

〈春の調査Ⅱの児童の感想より〉猪目川にはヨコエビやヘビトンボの幼虫など、きれいな川にすむといわれる水生昆虫がいました。カジカガエルがたくさんいました。おんぶガエルもいました。なわばり争いをしているオスのカジカガエルもいました。カジカガエルのきれいな鳴き声が聞こえてきました。

〈成果発表会に参加した児童の感想より〉

他の学校の人がどんなことをしているのか、そして、みんなも生活の中で川を身近に感じながら大切に思っているのがよく分かりました。



学校名・施設名等 出雲市立佐田中学校
担当者名 秦 慶樹
対象河川名 神戸川 実施時期 秋

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

[参加学年等] 1学年 [参加者数] 秋調査 17人

夏の調査は天候不順により実施できなかった。

1 目的

- (1)ふるさとの河川環境調査をすることで、地域の環境へ興味を持つ
- (2)伊川・神戸川流域環境マップづくりに協力する
- (3)調べたことをまとめたり発表したりすることで、人に伝える『表現力』を身につける

2 河川環境 2018年9月18日(火) 実施 天気 曇り 気温 28.0℃ 水温 26.5℃

【一番多かった指標生物】カワニナ 103 【水のきれい度】きれいな水

【その他の生物】ヨコエビ 53, カワゲラ 8, ヒラタカゲロウ 13, ナガレトビゲラ 6
ナミウズムシ 2, ヒラタドROMシ 5, オオシマトビゲラ 3, ヒゲナガカワトビゲラ 17
コオニヤンマ 1, タニガワカゲロウ 5

【水辺の様子】調査日前日まで雨が降っていたため水が増水していた。

川幅 30m, 深さ 15 cm COD 4mg/L

3 学習での取り組み

- (1)水生生物について
- (2)調査活動の役割分担・安全学習
- (3)河川調査(調査方法の学習, バックテスト, 採取, 分類, まとめ)
- (4)調査のまとめと反省
- (5)文化祭での発表



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

○ミクロの視点で地域の川に触れることにより、生物の名前や指標生物についての理解や知識が深まり、故郷に対する愛着が一層高まった。

○体験活動が中心であったため、生徒の学習意欲が非常に高かった。身近にある佐田の自然と積極的に関わることができ、地域の環境についての興味・関心が高まった。

【生徒の感想】

○自分たちにとって身近にある川を調べてみて改めてたくさんの水生生物が生息していることが分かった。

○川にゴミがあったので、ごみを出さないような生活をしていきたい。

○ジュースたった一滴であっても川に流さないようにしたい。

○一人一人が地域の環境に興味を持ち、積極的に清掃活動に参加するべき。

○川や山にポイ捨てをしないことはもちろんですが、ゴミが落ちていたら率先して拾う習慣を身につけたい。

○ポイ捨てをさせない町づくりをしていかないといけない。

学校名・施設名等 奥出雲町立 布勢公民館
担当者名 奥出雲多根自然博物館 菅田康彦
対象河川名 八代川 実施時期 春 ・ 秋

取り組み状況（河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について）

〔参加学年等〕 3～6年 〔参加者数〕 春調査 31人・秋調査 25人

【春の調査】 6/16 土曜日 晴れ
気温 20°C 水温 18°C
一番多かった指標生物 カワニナ 73
水のきれい度 ややきれいな水
その他の生物 サワガニ6 ハグロトンボ
シマイシビル8 ヤマトシジミ チラカゲロウ
水辺の様子 コンクリート2面張 一部は草本あり
河底はレキから砂
pH7.5 COD 5



【秋の調査】 9/15 土曜日 曇りの時々晴れ
気温 25°C 水温 20°C
一番多かった指標生物 カワニナ 59
水のきれい度 ややきれいな水
その他の生物 サワガニ6 ヒゲナガカワトビケラ 3
コガタシマビケラ オオシマトビケラ ツツトビケラ
かげろう類 ヨシノボリ ドンコ カワムツ
水辺の様子 コンクリート2面張 一部草本
河底はレキから砂
pH 7.0 COD 5



子どもや教師・地域等の感想（子どもの反応や反省点、要望等）

春の調査

去年より浅い 水が冷たい

楽しかった また遊びたい

数年おきに行われる、堆積土やヨシの群生の浚渫が、2月から3月に行われたためか砂の堆積が増えている。

秋の調査

前回より流れが速かった。水が冷たかった、やや濁っていた。においがある。楽しかった。また川遊びがしたい。釣りがしたい。

ヨシの群落が多少復活しつつある。防災上撤去は必要であるが、生物のすみかとなっている面もあり、判断が難しいが新陳代謝を良くする意味では必要であると思われる

2-3. 第12回「斐伊川・神戸川流域環境マップづくり」成果発表会の報告

日時：平成30年11月24日(土)10:30～12:30 会場：出雲科学館

主催：NPO法人しまね体験活動支援センター

共催：島根県中山間地域研究センター

後援：出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、奥出雲町教育委員会、飯南町教育委員会、
国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所、島根県地理学会

助成：公益財団法人河川財団、一般社団法人中国弘済会

総評：国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 副所長・村松 清氏、同河川環境室長・
眞田淳二氏、出雲市教育委員会教育政策課社会教育係長 安井寿裕氏、
一般社団法人中国建設弘済会島根支部長 江角忠也氏

内容：斐伊川・神戸川流域の4小学校児童が2018年に実施した河川環境調査等の取り組みを様々な手法で発表しました。劇や歌を使って、それぞれの調査結果や気づき、環境問題への取り組みなど発表してもらいました。その後、他校の発表を聞いた感想など会場での意見交換を行い成果の検証を行うとともに活動の成果を共有しました。

以下にその概況を写真で紹介します。



1. 飯南町立来島小学校の発表



2. 出雲市立神戸川小学校の発表



3. 奥出雲町立阿井小学校の発表



4. 出雲市立鱒淵小学校の発表



5. 意見交換会で発表する児童



6. 総評 国交省出雲河川事務所副所長・村松 清氏



7. 総評出雲教育委員会 安井寿裕氏



8. 表彰式 感謝状と記念品の贈呈

この成果発表会には多くの関係者や保護者、環境に関心興味のある一般参加者で賑わいました。今後も、この事業を継続し、児童・生徒の環境意識、自然に触れる体験機会の提供など、また、地域住民の環境保全意識の関心、高揚に向けて尽力してまいりたいと考えています。

今後とも、皆さまのご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。



発表者と関係者との記念撮影

3. 事業の検証

3-1. 2018年 指導教員対象アンケートの結果

今年度の活動に関して、2018年冬に実施した指導教員等アンケートには、参加 12 の全ての学校・公民館から回答をいただきました。

設問と回答結果

1. 本年度の実施について総合的に評価する とどうでしたか。

大変よかった	5人(42%)
よかった	6人(50%)
よくも悪くもなかった	1人(8%)
悪かった	0人
大変悪かった	0人

(回答数 12)

2. 年2回(春・秋)の実施、時期について

大変よかった	2人(18%)
よかった	7人(64%)
よくも悪くもなかった	2人(18%)
悪かった	0人
大変悪かった	0人

(回答数 11)

3. 来年度も協力して実施したいと考えていま すがいかがですか。

実施したい	8人(67%)
実施したくない	0人
わからない	2人(17%)

その他 2人(16%)

複式学級のため、今後は隔年の実施になる見込み。実施したいが来年度は該当学年がないため参加を見送りたい。

(回答数 12)

4. 先生方を対象にした専門家による河川調 査の指導が来年度も必要ですか。

必要である	7人(59%)
必要でない	1人
わからない	4人(33%)
その他()	0人

(回答数 12)

5. マップ on しまね(斐伊川・神戸川流域環境 マップ)の操作、入力について

大変よかった	1人(8%)
よかった	7人(58%)
よくも悪くもなかった	2人(17%)
悪かった	2人(17%)
大変悪かった	0人

(回答数 12)

6. 事前指導者研修会についてご意見・ご感想をお願いします。

- ・今年度の調査活動では、子どもたちと一緒に調査活動の際に、専門家の方に同行していただきました。見つけた生き物についてその場で教えていただいたことが子どもたちの心に残る学びにつながったので、教員対象の指導よりも、実際の調査に同行していただく機会を増やす方が効果的に思います。
- ・丁寧にご指導いただき、大変わかりやすかったです。実際に子ども達と川に行った時に、教えていただいたことを生かすことができました。ありがとうございます。
- ・今年は参加していないのでわからないが、来年以降もあった方がいいと思う。
- ・参加していないのでわかりませんが、初めて環境調査をされる方にとっては必要だと思います。(本校は1回目の調査は環境保健校舎の方に来ていただいて指導してもらったので、スムーズに環境調査を実施することができました。)

- ・ 学校行事と重なり、研修会に参加できず、残念でした。

7. 地域単位でのマップづくりも進んでいます。マップ onしまねを活用したいアイデア、河川以外での活用のご提案などありましたらお書きください。

- ・ もう少し密度が高い方が良いように思う。斐伊川本流のデータがもっと多いと良いと思う。

8. 要望・感想など自由にお書き下さい。(マップづくり・成果発表会についての感想など)

- ・ 川の調査を通して、子ども達が川を大切にしようという気持ちを持つことができました。神戸川の源流に行ってみたり、学習の成果発表の代わりとして川をテーマにした劇を作ったり、「今地域に流れている川がきれいであってほしい。」という思いを強めたと思います。今後はこの思いを発展させ、そのために自分達にできることは何かを考え、実行していくことが大切だと思います。

- ・ マップでは、他校の調査の様子なども知る事ができてよかったです。

今年度は、成果発表会にも参加させていただきました。自分たちとは違う切り口・視点の発表をみたり、他の地域の結果と比べたりすることによって、環境保全についての考えを深めるよい機会となりました。

※成果発表会当日には、どの学校も余裕をもって到着しているように見受けられましたが、会場となる出雲科学館は 9 時半にならないと開かなかったもので、外でしばらく待っていました。実際に 9 時半に入場しても会場準備の途中でしたので、リハーサルの時間をもっと遅くから案内されてもよいように思います。

※写真撮影・使用については、個人情報保護への配慮が必要だと思います。また、写真を使用する際にはあらかじめその旨を知らせてほしいです。

- ・ 調べる場所を決め、経年変化をみる必要があると感じた。春の開催では雨の影響で水位が上がっていたため、安全に配慮する必要がある。

子どもたちも水生生物を楽しく観察できるため、この活動を続けていきたい。

- ・ 環境調査当日の指導は、環境保健公社の方をお願いして指導を行っていただきましたが、団体が違うので色々戸惑うことが多かったです。できれば、体験活動センターの方で指導者の手配と日程調整は行っていただきたいです。それから、CODパックテストですが、実際に調査で使用するパックテストと学校で使用するパックテストに違いがあると児童が混乱するので、低濃度用（0～10ppm）の物を配布していただきたいです。

- ・ 児童の活動輸送費、環境学習物品の援助があり、充実した学習ができます。今後もよろしくお願いします。

成果発表会に参加させていただき、他の学校でも環境教育として様々な学習活動をしていることが分かり、励みとなりました。

- ・ 今回初めて環境マップに携わらせていただきました。わからないことが多く戸惑いましたが、学校まで出向いてマップ作りのやり方を教えていただき、とても助かりました。子ども達の中には川に入って遊ぶ経験をした児童が少なく、初めて川に入ったという児童が多かったようです。春だけでしたが、総合的な学習で川調査をしたことは、身近にある豊かな自然に触れ、自分たちのふるさとの良さについて再認識できる貴重な体験になったと思います。

- ・ マップの入力操作が難しい。ちょっとしたミスでそれまで入力していたデータが行方不明になる。もうちょっとインターフェイスがなんとかならないだろうか？

- ・ 類似調査がいくつかありの機関から依頼通知がくるので一本化できればいいかもしれません。

3-2. 国土交通大臣表彰「平成30年度 手づくり郷土賞(一般部門)」受賞

平成30年12月16日(日)東京国際交流館プラザ平成で開催された『手づくり郷土賞受賞記念発表会 ～グランプリ2018～』に参加し活動を発表しました。

「手づくり郷土賞」は昭和61年度に創設され、平成30年度で33回目の開催となる国土交通大臣表彰です。NPO 法人しまね体験活動支援センターの活動は、長きにわたる継続的な取組であること、学校教育と連動していること、子供達だけでなく保護者や地域の輪ができてきていること、環境保全活動を指導する教員を育成していることが非常に高く評価され受賞することとなりました。

「手づくり郷土賞認定証授与式」は平成31年2月15日に出雲市役所で、長岡出雲市長、流域教育委員会、参加学校長、島根県中山間地域研究センター等の出席のもと、国土交通省中国地方整備局森川幹夫副局長より青木充之理事長に授与されました。



関係者の受賞記念撮影(20190215 出雲市役所3階庁議室)

様式 11

2. 川づくり団体部門

[実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2018-6111-009	斐伊川・神戸川流域環境マップづくりⅫ	NPO 法人しまね体験活動支援センター 一 理事長青木充之

主な実施箇所	島根県出雲市今市町 1900-2 出雲科学館 (成果発表会会場)
--------	----------------------------------



助成事業の主な実施箇所

	遠景	近景
--	----	----



河川基金ロゴ等表示状況写真

延べ参加人数	一般	95名	スタッフ・事務局	7名
マスコミ等の反響	島根日日新聞に成果発表会の様子が掲載された			